



成果指標				
成果指標	老人クラブへの加入率(会員数/60歳以上人口)を39.5%とする。			
指標設定の考え方	加入率の全国平均を目標とした。高齢者人口が増加しているにもかかわらず老人クラブ加入率は減少傾向にある。生活様式や趣味の多様化等による影響、若手会員の減少による活動組織の弱体化、老人クラブに対する社会の理解不足などを克服し会員数を増加させることは、将来的な自主運営や社会扶助の増進につながると思われる。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目標	39.5%	39.5%	39.5%	0
実績	22.4%	21.3%	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	2	C
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	2	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	老人クラブが任意団体でありながら、社会における老人クラブの位置づけが高まっているのは、今後増加する高齢者の社会参加の手段として、また、介護予防の担い手として期待されているためである。一方で、補助金に頼る運営を続けることは、任意団体としての自主性や独立性を失わせ、社会が期待する「受け皿」としての団体運営ができなくなる恐れもある。市老連では「県老連若手委員」を理事に含め、60歳台の会員獲得に向けた取り組みが始まったばかりであるが、会員相互の融和や親睦を図りつつ、役員の若返りと、それによる活動活性化に向け支援しなければならないと考える。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	2	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	今年度から60歳台の会員獲得に向けた活動を行ったが、老人クラブ加入率は減少している。全国平均の加入率が39.5%ということであるが、本市の加入率が何故低いのか、そのあたりの原因を探る必要があるのではないかと考える。また、老人クラブ加入者の自主性を育てていく施策を講じていくべき。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題